

---

# 水底のシリウス

月島 真昼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

水底のシリウス

### 【Nコード】

N3199G

### 【作者名】

月島 真昼

### 【あらすじ】

ニンゲンに捕まった仲間の帰りをじっと待つ1匹の野良犬の話

今日も1日が終わった。

俺は悪臭と泥にまみれた身体をゆっくりと水につけた。水は嫌いだがこの臭いのほうが耐え難い。ゴミ山に身体を突っ込んだだけあり戦利品は先ず先ずだ。

ニンゲンはまだ食べる物を平然と捨てるから、今日はたくさん集まった。あの場所、すーぱーとかいう場所の前は絶好の餌場だ。

臭いがようやく取れてきた。俺は水から上がりぶるぶると身体を震わせて水滴を弾き飛ばす。

俺は野良犬だ。仲間みんなニンゲンに捕まった。俺は仲間が逃げてきたときのために食糧を集めている。きつとあいつらは逃げてくる。俺はそう信じている。

ああ またカラスのやつが来た。

「その食べ物に分けてくれよ 1人じゃそんなに食べられないだろう?。」

カラスが言う。こいつはいつもそうだ。

自分が悪臭が嫌だから俺が仲間のために集めた食糧を奪いに来る。

「嫌だ いつも言ってるだろう? これは拐われた仲間の分なんだ」

俺は威嚇混じりの低い声を出す。

「君の仲間はや来ないよ みんな殺されたから」

「嘘だ」

俺は姿勢を低くして、飛び掛かる構えを見せた。  
カラスは餌を諦めて飛んで行った。

俺は物音に気をつけながら静かに眠りにつく。

… 朝がきた。

カラスのやつが何を言おうが俺のやることは変わらない。ただ餌を集めて仲間の帰りを待つだけだ。

俺は昨日の『すーぱー』という場所に行く。

「出たな ゴミ漁り！ ぶっ殺してやる！」

ニンゲンは包丁を振るった。

間一髪でかわす。腹のあたりが薄く切れる。

しくじった。見つかるとはへマをした。だが、人間の脚力で俺に追いつけるはずがない。

俺は全力で駆け抜けた。

「フウ… フウ………」

俺は荒い息を吐く。

生ゴミの臭いで吐きそうになる。いつものように水で洗い流す。腹の傷が痛むが、やむを得ない。

ばんっ

変な音がして、直後に激痛が走った。

奇妙な形の筒を持ったニンゲンが数人。しまった。

気づかなかった。

痛みが神経を貫いて立ち上がることにすら出来そうにない。

ここまでか。

仲間達よ、済まない

「野良犬の『生き残り』が、手間取らせやがって」

俺の身体はゆっくりと水底に沈んだ…

(後書き)

タイトルは『地上の星』より拝借しました。

……分類は二次創作になるのかな？

人間より動物のがよっぽど仲間想いだ。っていうお話を書きたかったんですが……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3199g/>

---

水底のシリウス

2010年12月14日21時45分発行